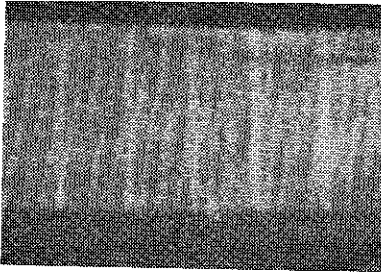


台としておしすすめていきたいと考える。



Nsaw でいす材加工の挽面（切削長 2300M）

## (7) 観光土産品の試作研究

担当者 堀之内 輝 男

### 目 的

観光地として最近九州の南端に位置する、開聞岳を観光の母体とした開聞町がクローズアップされて来つゝある。薩摩富士の別名で全国的にも有名であり、その山麓には温泉郷もあり観光客も年々増加の一途をたどつていゝる。しかし現在のところ郷土的な土産品が殆んどなく、観光地として、十分に活かしきれずにいるのが現状である。そこで開聞町に産出する材料をもつて新品種の土産品開発とデザイン追求が目的である。

### 概 要

開聞町に産出する芳樟材を主体とし、南国的なビロー葉、シユロの皮、及び貝殻を利用し、それぞれの材料のもつ材質感のコントラスト的效果の研究を主眼においてこの研究を進めた。芳樟材については材質、材の大きさから検討の結果、挽物加工による、こけし人形に類した加工に適した材であるとの見地から、材の大きさに合致したデザインの研究と着色の研究を行った。

### I 材 料

1. 芳 樟 径20%~70%程度の樹幹及び枝材（樹皮付）含水率15%~20%程度。
2. ビロー葉 葉先の部分でビローウチワ等を加工した際の廃材を利用した。
3. シユロ皮 南国的な人形の感じを出す目的で土人風な腰みの、帯等に利用した。
4. 貝 殻 貝殻の種類によつて、人形の帽子に利用し良い結果を得た。

### II 接 着 剤

#### 酢酸ビニール系接着剤

使用法が簡便で乾燥すると透明になる利点を利用ビロー葉、貝殻等の接着に使用した。たゞ硬化時間が少々永いため、接着場所によつては正常な接着が困難である。しかし硬化迄、粘土により支えをすることによつて、この問題は解決できた。

### III 着 色

- 黒 色 ダイレクトブラウン（直接染料） 2  
ニ グ ロ シ ン（酸性染料） 1
- 黒褐色 ダイレクトブラウンKGG（直接原料） 3  
ダイレクトブラック （ " ） 2  
ダイレクトスカレット （ " ） 1

上記の割合で調合の上、人形の種類に応じた感じを出すため、水で適当な濃度に薄め使用した。

### III 仕 上 げ

#### 蠟仕上げ（木蠟）

### V 加工工程

先ず芳樟材を仕上り寸法より20%~30%位長く鋸断し、旋盤加工する。この際、挽面の面白さを出すためと、人形の正面、裏面を作るため、変心挽する。多面挽きする場合は2回、3回と変心して、予定の場所に挽面を出すようにする。

次に着色するが、蠟仕上げを行なう。特に蠟仕上げする場合注意することは、樹皮部分に蠟がかゝらないよう挽面だけ蠟引きすることが肝要である。蠟仕上げ後三角刃、丸刃にて、目鼻その他必要な部分に彫刻を施し、唇その他必要部に着色し帽子等を付けることで仕上がる。

### 概 要

以上の試作研究の結果からみて、開聞町の土産品として一応南国的感じの作品が出来たと思う。加工面から云うならば、材質的にも旋盤加工は容易であり、又材料の大きさに適合したデザインをするならば材料的にも無駄がない、たゞ顔の彫刻にある程度の熟練を必要とすることが難点と云えよう。今後デザイン、着色に一段の研究をするならば、郷土色あふれる土産品としてアピールすることゝ思う。